

思い出を書ける中学時代に

七月五日、普代中学校（寺林拓也校長・生徒百二十一人）では、「身近なことから人権を考えてみよう」と題して、盛岡法務局宮古支局・子どもの人権専門委員の武田勤さん（宮古市）をお招きして、講演会を開きま

め』は『受けた本人がいやだ』と感じる、これが基準です。

め』は『受けた本人がいやだ』と感じる、これが基準です。

過去の悲惨な事件（学校時代）にいじめを受けたA君は、卒業後開かれた同窓会で、いじめをしていましたB君を刺し殺してしま

をお招きして、講演会を開きました。

同講演会は、人権を考える作文の募集依頼が同校にあつたこ

とをきっかけに企画。村人権擁護委員の佐藤勲さん（緑区）、熊谷栄子さん（堀内）、和村淑子さん（中央区）も同席して生徒らと講演に耳を傾けました。

武田専門委員は、自己紹介の後、平成九年七月に策定された「人権教育のための国連十年」は国内行動計画で、家庭、学校、職場、地域社会など普段から人権とは何かを考え、人権尊重の意識を高めることが強く求められています。と口火を切りまし



真剣なまなざしで、人権問題に身を傾ける生徒ら

きてきたことや生きることへの意味が含まれています。

人と人とのつながりを大切に思い出を書ける中学時代であつて欲しい」優しさをこめてきっぱりと「おかげさまで」と結び、講演を終えました。

つた）を例にあげ、「悔しさは、その月その年に解決し、よい思

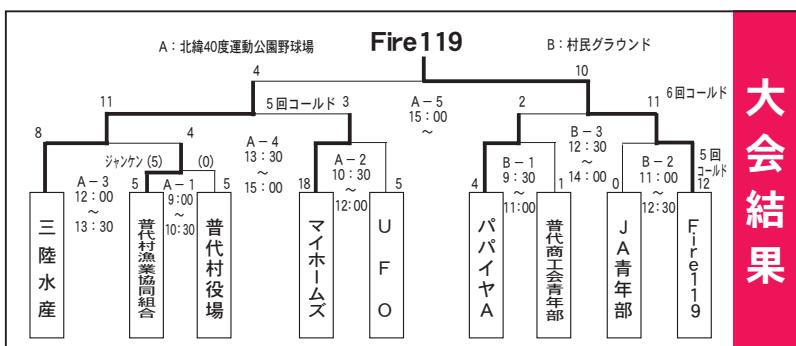
い出は永く持ち続けるようにしましよう。そうした思いをいつか語れる日がきっときます。

日本人は人の前で話をすることが得意ですが、『はい／だ
と思ひます』これだけでも心に決めておいて話すようにしまし
よう。そうしてクラブの中であ

特に多感な時期の中学生は、周囲に配慮しない自己主張や言動によって互いに傷つく場面が多く見られます。このことにまで想いをこめた感想文に、講演会の成功を感じました」愛情込めたまなざしで、力強く語つてくれました。



昨年に続いて優勝したFire119



平成14年(2002) 7月号

- 12 -

ド11—2と下し決勝に進みました。